

1. 建物概要						
建物名称	ヤマハモーターエンジニアリング株式会社 本社棟	BEE	1.6	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.8	/5	ふつつ		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.2	/5	ふつつ		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.1	/5	ふつつ		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.9	/5	がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上
			がんばろう 3 点未満		

3. 重点項目についての環境配慮概要			内訳対応項目									
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。												
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)			得点					3.8				
	■室内環境対策 (①室温制御/②星光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)		Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能				
	①断熱材を強化し、外皮性能を上げている		Q-1	3	3.1	3.1.3	②	星光利用設備				
	③ブラインドと庇を組み合わせて制御				3.2	3.2.1	③	星光制御				
	④外壁 金属サンドイッチパネル:30年		Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数				
	④天井:ボード30年、壁:ビニルクロス20年、床:タイルカーペット20年				2.2.2		④	外壁仕上げ材の補修必要間隔				
	④屋外露出ダクト、厨房排気ダクトにステンレスダクトを採用				2.2.3		④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔				
④給水:塩ビライニング鋼管B、汚水・雑排水:塩ビB、Eは不使用				2.2.4		④	空調換気ダクトの更新必要間隔					
				2.2.5		④	空調・給排水配管の更新必要間隔					
				2.2.6		④	主要設備機器の更新必要間隔					
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)		Q-3	1				⑤	生物環境の保全と創出				
			3	3.2			⑥	敷地内温熱環境の向上				
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用)		LR-1	1				⑦	建物外皮の熱負荷抑制				
⑦BPI _m =0.80			2				⑧	自然エネルギー利用				
⑨BEI _m =0.66、LED照明の採用			3				⑨	設備システムの高効率化				
			4	4.1			⑩	モニタリング				
				4.2			⑩	運用管理体制				
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)		LR-2	1	1.1			⑪	節水				
⑪節水コマ、自動水栓などに加えて、節水型便器を主要水栓の過半に採用				1.2	1.2.1		⑪	雨水利用システム導入の有無				
⑫スーパーエデッキ、SFデッキ、スマートダイヤⅡ工法を採用					1.2.2		⑪	雑排水等利用システム導入の有無				
⑫ビニル床材・床仕上げ材、フリーアクセスフロア・床材、断熱材・ポリスチレンフォーム板		2	2.1				⑫	材料使用量の削減				
⑫LGS下地とし、躯体と仕上材が容易に分別・取外し可能、OAフロアを採用				2.2			⑫	既存建築躯体等の継続使用				
⑬ODP=0、GWP=10未満の発泡剤を用いた断熱材を使用				2.3			⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用				
				2.4			⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				
				2.5			⑫	持続可能な森林から産出された木材				
				2.6			⑫	部材の再利用可能性向上への取組み				
		3	3.1				⑬	有害物質を含まない材料の使用				
				3.2	3.2.1		⑬	消火剤				
				3.2.2			⑬	断熱材				
				3.2.3			⑬	冷媒				
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)		LR-3	1				⑭	地球温暖化への配慮				
			2	2.2			⑮	温熱環境悪化の改善				
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)			得点					3.2				
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)		Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性				
	⑰耐震クラスSとしている				2.1.2		⑯	免震・制振性能				
				2.4	2.4.1		⑰	空調・換気設備				
				2.4.2			⑰	給排水・衛生設備				
				2.4.3			⑰	電気設備				
				2.4.4			⑰	機械・配管支持方法				
				2.4.5			⑰	通信・情報設備				
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)			得点					3.1				
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)		Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画				
	㉑壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。			3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり				
					3.1.2		⑲	空間の形状・自由さ				
■室外環境(敷地内)対策 (㉒地域性・アメニティへの配慮)		Q-3	3	3.1			㉒	地域性への配慮、快適性の向上				
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)			得点					2.9				
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)		Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出				
				2			㉓	まちなみ景観への配慮				
				3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上				
	■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)		LR-2	2	2.5		⑫	持続可能な森林から産出された木材				
		LR-3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善					

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

|使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ヤマハモーターエンジニアリング株式会社 本社棟	階数	地上6F
建設地	静岡県磐田市西貝塚3622-8、3624	構造	S造
用途地域	準工業地域、法第22条区域	平均居住人員	422 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,440 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年4月 予定	評価の実施日	2024年10月23日
敷地面積	1,500 m ²	作成者	竹下一級建築士事務所
建築面積	603 m ²	確認日	2024年10月23日
延床面積	3,197 m ²	確認者	竹下一級建築士事務所

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE=1.6
S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★★ C:★★★

環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 76%
③上記+②以外の 76%
④上記+ 76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性 5
Q3 室外環境(敷地内) 4
LR3 敷地外環境 3
LR2 資源・マテリアル 2
LR1 エネルギー 1
Q1 室内環境 0

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.9

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.7

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.1

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.6

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項

総合

持続可能な社会への貢献ができるよう、環境負荷に対する目標を定め、パッシブデザインとアクティブデザインにより達成を目指しています。

その他

これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。

Q1 室内環境

ブラインドや庇を採用するなど光・視環境に配慮している。
F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど空気質環境にも十分に配慮している。

Q2 サービス性能

壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。
補修必要間隔の長い外壁材、仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。

Q3 室外環境(敷地内)

空地率を大きくし、また、中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。
緑地を設けることにより良好な景観を形成している。

LR1 エネルギー

断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。
LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。

LR2 資源・マテリアル

自動水栓や省水型機器を用いるなど、水資源を保護している。
ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。

LR3 敷地外環境

広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。
燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される